



APRICOT 2020

参加報告

後藤ひろゆき



自己紹介

後藤ひろゆき

- グリー株式会社
 - インフラエンジニア
 - 標準化活動 / IETF 参加
- ISOC-JP
 - インターネット標準化推進委員会



背景/参加目的

興味/背景

1. インフラエンジニアとして、L4~L7技術に興味があります
2. W3CやIETFにおいて、Web技術関連の標準化に興味があります
3. ISOC-JP インターネット標準化推進委員会として、技術的な啓蒙やインターネットの健全かつ持続的に発展することに興味があります

参加目的

1. 国際的に、ネットワークオペレータの方々が議論しているopsの話を聴く
2. インターネットのポリシーメイキングの場でどのような議論されているか知る
3. その上で、自身のインターネットへの貢献を考える

参加したセッション名 (1/2)

- Day2 (2/18)
 - RPKI Deployment 1
 - RPKI Deployment 2
 - APOPS 1
 - Opening Ceremony and Plenary
- Day3 (2/19)
 - Newcomers Social
 - DataCentre Networking
 - APNIC IPv6 Deployment

参加したセッション名 (2/2)

- Day4 (2/20)
 - APNIC Policy SIG 1
 - APNIC Policy SIG 2
 - BGP & Routing Security
 - IPv6 Operations
 - Meet the APNIC EC Social
 - 25th APRICOT Party
- Day5 (2/21)
 - APNIC AGM 1
 - APNIC AGM 2
 - APNIC AGM 3
 - Closing Plenary & Ceremony

印象に残ったしたセッション (1/3)

RPKI deployment

RPKI(Resource Public Key Infrastructure)に関するの発表があった。
各組織がもっている統計情報や、相互運用上の問題(RFC非準拠挙動の共有)、開発したツールや取り組みについて発表がなされた。

SEACOMのMark Tinka氏の発表「RPKI Deployment: 2020 SEACOM Update」で共有された特定ベンダーでRFC8481(BGP Origin Validationの話)に関するバグの話や。ROA statusアップデート漏れによる障害などの統計情報が共有された。

- インターネット維持のために、オペレーター間での連携・トラブルシュート
- 標準化とOPSで相互にフィードバックしていくべき
 - RFC8448 Example Handshake Traces for TLS 1.3 のような方法など

印象に残ったしたセッション (2/3)

Policy SIG

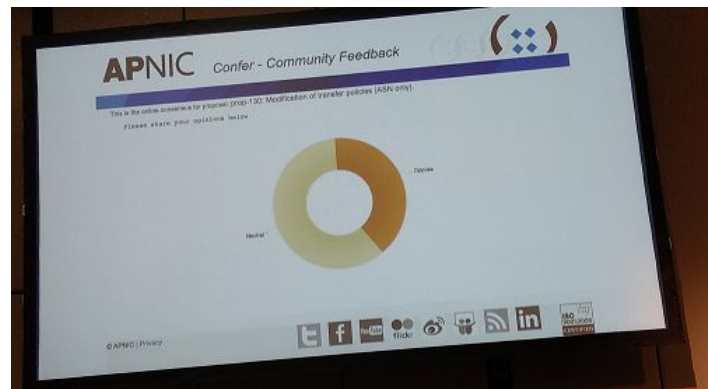
APNICの持つ大事な役割でもあるインターネット番号資源の管理についてAPNIC地域内でのポリシーについて議論、提案の可決を行う。

IETFは、“we believe in rough consensus and running code” と掲げるようにものを決める際に rough consensus を大事にしており多数決や投票を行いません。一方、Policy SIGでは Support/Neutral/Opposeと数字で表示されることが個人的に新鮮であった。

本会合での議題として、以下の提案の投票が行われた

- prop-130: Modification of transfer policies
- prop-133: Clarification on Sub-Assignments
- prop-134: PDP Update

(それぞれ、本会合では可決はなかった)



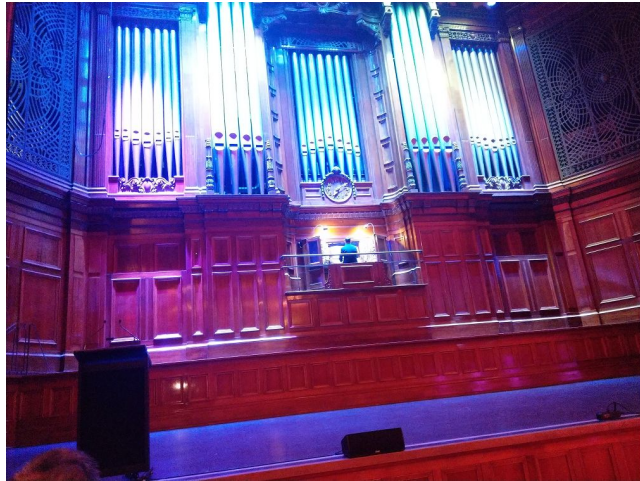
印象に残ったしたセッション (3/3)

APOPS1において、Geoff Huston氏からの「Buffers and Protocols」は、TCPとネットワーク上でのバッファイングについての紹介があった。各輻輳アルゴリズムとスイッチのキューの利用状況、ネットワークレイテンシの関係について説明があった。特に、ネットワークスイッチのバッファを増やすことで、レイテンシ増加だけでなく輻輳制御状も不利な事が示されており、興味深かった。

APOPS2において、CiscoのBeatty Lane-Davis氏から「Subsea networking for non-physicists」という発表があった。海底ネットワークにおける、ファイバーの素材特性、エコライザ、分岐器、前方誤り訂正、符号化のトピックなど幅広く取り扱われた。普段は見聞きしない話であり、大変興味深かった。

ソーシャル

- Opening Social
- 25th Social
- New Commer Social



今回の経験を今後どう生かして行きたいか

- インターネットを活用した営利企業のエンジニアとして
 - インターネットの繋がりのために、ひとのつながりは要素の一つだと感じた
 - インターネットのポリシーやその関係者でどこでどういった議論をしているか体験した。我々が関連する議題に関しては関心を持ち、可能であれば積極的に関わっていきたい。
- 標準化を行っている立場として
 - インターネットが正常に動作するため標準化と実際のオペレーションが相互にフィードバックされる事が大事だと感じた
 - オペレータを意識しつつ、活動していくことを心がけたい。
 - また、続き物の議論に関しては参入障壁が高いと感じた。JPNICさまが書かれているような、用語の説明やカンファレンスの内容にかんする日本語の解説記事は大変有意義だと思うので、同様の活動を行っていきたい

参加支援プログラムに関する所感

インターネットが健全かつ持続的に発展することは非常に大切です。その点で、APRICOTへの参加は国際的意義、技術的重要性、ポリシーメイキングの場として一参加者として強い刺激になりました。

また、日本から継続的に参加することの重要性も感じました。そのため本参加支援プログラムは国内外のインターネットの維持のため非常な役割を果たしていると思います。

手続き、費用面でなく、事前打ち合わせから会期中のフォローアップ頂き大変助かりました。内容の理解もすすみ、有意義なものとなりました。

最後に

最後に貴重な機会を提供いただいた、JPNIC インターネット推進部 国際会議参加支援プログラム事務局さま、協賛・関係者の皆様、会期中サポートいただいた中川 香基さまに感謝を申し上げます。